

【特色あるフロンティアスクールの取組事例】

都道府県番号	長野県
都道府県名	20

( )  
該当する観点にチェックをすること

・学校名及び規模

飯田市立竜峡中学校										
	1年	2年	3年				特殊学級	計	教員数	
学級数	2	2	3				2	9	18	
児童数	72	72	85				5	234		

・実践研究の概要

<p>・主題（テーマ）</p> <p>一人一人の生徒の学力を習熟度でとらえ、それを伸ばすコース別学習を設定していくには、どのような手だてをとったらよいか。</p> <p>・テーマ設定の趣旨</p> <p>比較的落ち着いた生徒が多く、教師は一方的に知識や技能を伝授する授業を展開することが多かった。ところが、「確かな学力」という視点から見たとき、潜在する問題点と課題が浮かび上がってきた。5月に実施したNRTテストによれば、2、3年生において、全体の40%の生徒が評価2の分野に位置していた。</p> <p>そこで、日々の授業の中で生徒がどれだけ力をつけているのか、見極めることが出発点であると痛感し、これを、第一の研究の柱「生徒の学力を習熟度でとらえ、指導に生かす評価の研究」として位置づけた。</p> <p>また、日々の授業の中で、分かるきっかけをつかめないまま学力を落としていく生徒があり、一人一人の生徒に的確な支援をしていくことが必要であることも確認した。これを、「それぞれの生徒の力を伸ばす少人数コース別学習の実施」という第二の研究の柱とした。</p> <p>生徒の学力を習熟度で的確に評価する手だてを持ち、少人数コース別学習の中で生徒のつまずきや願いに合った学習を用意することで、確かな学力をつけることができる考えたのである。研究の実践は、少人数授業の加配教員を有する数学科を中心に進めることとした。</p>
---

・実践研究の内容について

( ) 研究体制の工夫

1. 1、2年生2学級の数学を、3人の教師で指導する体制をとり、関係する教師5人で「少人数授業推進委員会」を構成した。
2. 授業は、TTで実施する部分と習熟度によるコース別学習による部分の二通りと

して、単元の中で効果的に構成するようにした。

( ) 実践研究の内容

1. TTによる授業と少人数コース別学習の組合せ

単元の初めの部分は、TTで実施し、理解が極端に困難な1・2名に十分な個別指導ができるように配慮した。一般化の部分で、習熟度によるコース別学習を実施して、基礎的部分でつまずいている生徒の解消やさらに力を伸ばす発展学習の充実を考えた。

【正の数・負の数の計算】 20時間

加法・減法	乗法・除法	乗法・除法	テスト
TT授業 7時間	TT授業 6時間	コース別学習 6時間	1 時間

単元の初めのTT授業の内容

単元の初めにTTで授業を行い、理解が特に困難な1・2名の生徒に十分な支援をする時間を確保した。また、導入問題で、答え合わせをして、最初の理解でつまずきを持っている生徒を把握し、個別指導を加えた。

2. 習熟度別コースの設定

習熟度別コースの設定については、次の点に配慮した。

保護者への説明と授業公開の実施

保護者へは、次の点を記載した「コース別学習のお知らせ」を配布した。

- ・コース選択は、生徒が自己診断をして自主的にするものであること。
- ・単元ごとに選択をしておいていくこと。
- ・授業公開をするので、参観して感想をお願いしたいこと。

参観日等でコース別学習の授業を公開して、感想用紙に記入をお願いした。

【寄せられた感想から】

- ・少人数の中でわかるまででいいに教えていただき、ありがたいなあと思いました。子どもたちも楽しそうに授業を受けていました。クラスの授業のときは「わけがわからん」というようなことを口にしてましたが、数学の授業が楽しくなると嬉しいです。充実・発展コースがあると思うと親としては少々焦りますが、今は基礎の力をしっかりつけてほしいものです。(基礎コース親)
- ・少人数に分けて自分で選択して学習することは、とてもよいと思いました。不安のあるまま次へいってしまうことは本人も悲しいと思いますが、こういう形で確実なものにして次の学習にいけたら落ちこぼれることもなくなっていくと思います。(充実コース親)

コースを分ける習熟度の決めだしと指導目標の具体的な設定

コース別学習に分かれるときに、そのコース別学習に必要な基礎力を診断するテストを実施した。

- ・15分程度でできて、自分のつまずきをつかみやすいものにした。  
例...正負の数の計算では、整数・分数・小数の順で、難易順に並べた。
- ・自分で答え合わせをして、参考として書いてあるコース別の学習内容に照らして、自分でコースを選択するようにした。

この診断テストにより

生徒は

そのコース別学習について必要な基礎力について、自分の到達度やつまずきを明らかにし、コース別学習の学習目標を持つ。

- ・( )のある計算ができなかったので、できるようにしたい。
- ・指数計算のときに、符号がおかしくなるので答えの符号が正しく出るようにしたい。

教師は

それぞれの生徒の基礎力を把握し、つまずきについての具体的な指導の手などで、指導目標を持つ。

- ・特に基礎コースでは、つまずきを分類して一斉に補充指導するものと個別指導するものに分けて授業に臨む。
- ・「符号の約束を理解して整数計算ができるように」等個別の目標を立て授業のどの場面でチェックするか計画を持つ。

生徒の自主的選択・自己評価の重視とコースの固定化をなくす

診断テストでコースを選択した生徒が、学習カードや評価テストによって自分の学習の伸びを自覚できるようにした。また、その都度コースを選択し直すようにして、固定化による弊害を避けた。

【生徒の感想から】

- ・今まで分からなかったところが分かるようになったし、忘れかけていたところがしっかりできるようになった。(基礎コース)
- ・同じようなところで考えている人たちなので、そこをくわしく教えてくれたりして前より楽しく計算ができるようになったので、よかったです。(充実コース)

#### ( ) 成果と課題

1. T T の授業と習熟度によるコース別学習を組み合わせることにより、生徒の理解度が増した。

導入では、T T 授業が、一般化ではコース別学習が効果的であった。

2. 習熟度によるコース別学習は、保護者・生徒への十分な説明と、自主的選択や自己評価を可能とするテスト・学習カードを取り入れることで偏見を排し、充実感のあるものとすることができた。

生徒の学習目標、教師の指導目標を具体的に持つことにも役だった。

#### ( ) 成果の普及方策

1. 本年度の数学科での試みを、来年度は英語科さらに他教科へと広げていく計画である。
2. 公開授業によって、本校の取り組みを、他校職員や保護者、地域の方に観てもらおう機会をとっていく。